

ベトナム 世界遺産紀行

駒井 隆夫



昨夏、ユネスコの世界遺産に指定されている場所を中心にベトナム各地を訪れたので、その印象を記したいと思う。

ハノイ 最初に訪れた首都ハノイは一千年の歴史を有する古い街で、急速な経済発展に沸くホーチミンとはなにかと対照的である。

ベトナム最古の大学が開設された孔子廟（文廟）、11世紀の李朝時代に造られた一柱寺、仏領インドシナ時代の洋風建築など、さまざまな時代の文化が息づき、豊かな緑や湖が落ち着いた古都としての趣を添えている。

ハロン湾 ハノイから車で3時間余、神秘的で水墨画のような景色のハロン湾が姿を見せ始めた。世界自然遺産に登録されているベトナム随一の景勝地でもあるハロン湾は波によって浸蝕された大小3千もの奇岩奇峰が海面から林立し、別名を海の桂林と称される絶景である。多様な表情を見せるハロン湾をクルージングすると、無数の奇岩が織りなす自然の不思議に驚嘆を隠せない。

フエ ベトナムの京都とも称される古都フエは宮城や歴代皇帝廟などの重厚な建造物群が世界文化遺産に登録され、光と影の歴史を刻んだ往時の面影を偲ばせている。

宮城内で喚声をあげながら遊びに興ずる子供達に記念写真を求めたところ、愛想よく屈託のない笑顔でポーズを取りながら一緒に写真に収まり、別れ際には、タム・ピエット（さようなら）と手を振って見送って呉れたが、この子供達の純真さがその平和の原点であるとの思いを強くしたのであった。

ホイアン ベトナムの中部に位置し、16～17世紀には日本の御朱印船なども立ち寄り、最盛時には1千人以上が住んで日本人町が形成された所で、世界文化遺産となっている。

現在残っているホイアンの古い街並みは日本人の後で移住してきた華僑によって造られたもので、当時の姿を伝えるものは日本人が設計したといわれる屋根付きの来遠橋（通称日本橋）と郊外

にある日本人墓地だけである。

昔日の面影を追って旧日本人町を散策するとなんとなくノスタルジックな気分誘われるのは私一人だけだろうか。

ホーチミン ノン（スゲ笠）を被って野菜やくだもの売りの青空市場から、トレンディーなブティックやショッピングセンターまで、過去と現在、新旧の同居が他のどの地域よりも鮮明であり、活気のある街ホーチミン。

モダンな高層ホテルや華やかなネオンのカラオケ店が進出する一方、フランス統治時代の影響を映す広い並木道やクラシックな洋風建築が異国情緒を漂わせている。

この街の印象を一言でいうならば、ホーチミンは決して眠らないということだろう。市内に入って先ず驚かされることは、バイクの集団に遭遇することである。早朝から無数のバイクが行き交い、夜遅くまで街は熱気に包まれる。若者には圧倒的に日本製のホンダに人気があり、アオ・ザイをなびかせて走っている若い女性や家族連れなどもよく見かけられた。

幾多の戦禍に見舞われ、苛酷な運命に翻弄されてきたベトナムは、私が十数年前に訪れた時と比べ、経済の飛躍的な発展や大きく変化した社会の変遷とともに、フエやハノイで出会った子供達の生き生きとした表情からも国のダイナミックで希望に満ちた未来を予感させていた。

こまい たかお（図書館・参事）

本学図書館所蔵のベトナムに関する図書
（旅・紀行関係）

地球の歩き方ベトナム（ダイヤモンド・ビッグ社）
ベトナムわんさか共和国（トラベルジャーナル）
南北縦断2300キロ：ベトナム（日本放送出版協会）
ベトナム紀行情報館（ゑん文社）
ハノイ&サイゴン物語（集英社）
ベトナム以後を歩く（岩波書店）
ベトナム：長期滞在者のための最新情報（三修社）
観光コースでないベトナム（高文研）
もっと知りたいベトナム（弘文堂）
ベトナムもうひとつの旅（明石書店）
ベトナム個人旅行マニュアル（ダイヤモンド・ビッグ社）
ベトナム情報事典（星雲社）

